

たけべ米 栽培ごよみ

— 特別栽培米 ヒノヒカリ(レンゲ) —

たけべ特別栽培農産物研究会

◎特別栽培とは・・・◎

次の①と②の両方の条件を満たす栽培

- ① 化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
- ② 化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

	化学合成農薬 (延べ成分使用回数)	化学肥料 (窒素成分量kg/10a)
慣行レベル (ヒノヒカリ)	18	12
特別栽培米 (ヒノヒカリ)	9以下	6以下

◎栽培のポイント◎

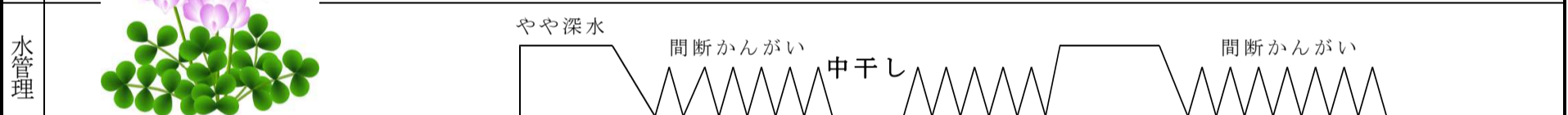
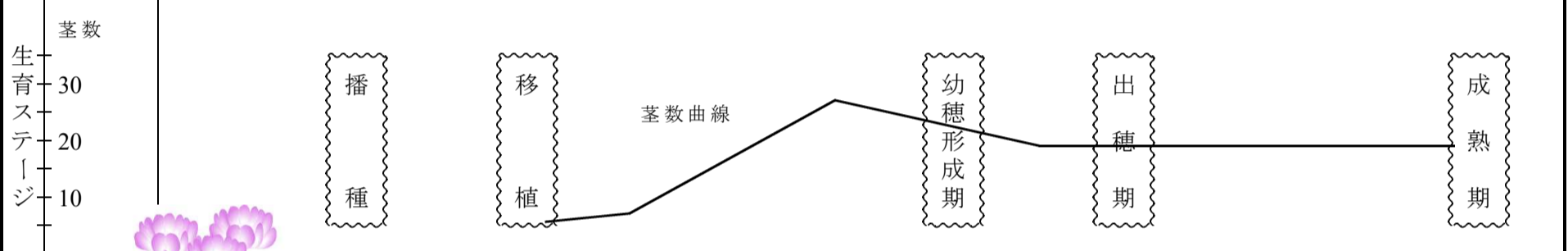
- ・日当たりの良い、平坦地が適する。
- ・播種、田植が早いと高温障害を受けやすくなるので注意する。
- ・ガスの発生に注意し、「間断かんがい」「中干し」により根を健全に維持する。
- ・有機質肥料は、葉色がやや薄くなるので、施肥過多にならないよう注意する。
- ・穂肥時期は化成肥料を使う場合より、やや早めに施用する。
- ・刈り遅れると茶米が発生しやすいので、適期収穫に努める。

- ・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！
- ・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

【ヒノヒカリ特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質	食味
					葉	穂					
中	8.28	10.10	81	偏穂	中	中	弱	中	強	上の中	上の上

月	5			6			7			8			9			10	
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中



管理作業	① 種子消毒 種子の準備	② 播種 レンゲすき込み	③ 基肥の施用	④ 育苗箱処理	⑤ 移植	⑥ 除草剤散布	⑦ 穂肥	⑧ 病害虫防除	⑨ 落穂	⑩ 収穫
------	-----------------	-----------------	---------	---------	------	---------	------	---------	------	------

【例】

用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数
①種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シガレセンチュウ等	0	—
②育苗箱処理	デジタルパウアー箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	育苗箱中の苗の上から均一に散布	いもち病、ウンカ類、フタオビコヤガ、イネヌソウムシ等	3	1
③除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～13葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホトケイ等	2	1
※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウンカ類、ツマゲロコバイ、ニカメイチュウ、カメムシ類等	1	1

※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。
追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。

【例】 (kg/10a)

		N	P	K
基肥	レンゲ	2,000		
	菜種粕ペレット	50	2.7	1.0
	有機PK2号	30	0.3	3.0
穂肥	有機653	50	3.0	2.8
	計		6.0	6.8

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

- ### 【施肥のポイント】
- 1 レンゲの生育量に応じ、すき込みの時期を考慮する。
 - 2 レンゲのすき込み量で、基肥(菜種粕)を加減する。
 - 3 穂肥(追肥)は、地力や生育、葉色に応じ、時期と量を加減する。

たけべ米 栽培ごよみ

— 特別栽培米 ヒノヒカリ（堆肥） —

たけべ特別栽培農産物研究会

◎特別栽培とは・・・◎

次の①と②の両方の条件を満たす栽培

- ①化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
- ②化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

	化学合成農薬 (延べ成分使用回数)	化学肥料 (窒素成分量kg/10a)
慣行レベル (ヒノヒカリ)	18	12
特別栽培米 (ヒノヒカリ)	9以下	6以下

◎栽培のポイント◎

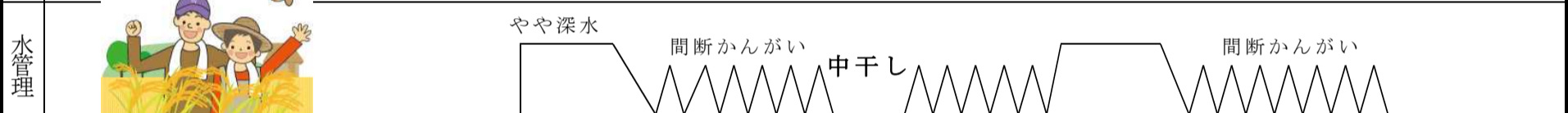
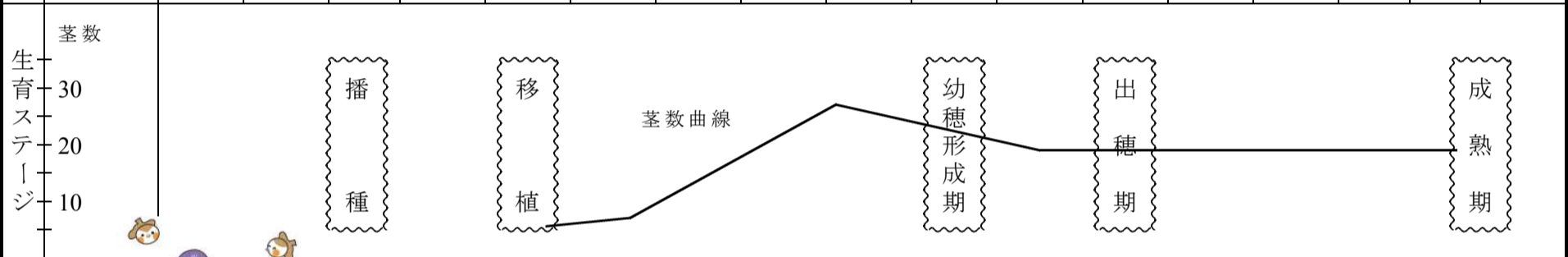
- ・日当たりの良い、平坦地が適する。
- ・ガスの発生に注意し、「間断かんがい」「中干し」により根を健全に維持する。
- ・有機質肥料は、葉色がやや薄くなるので、施肥過多にならないよう注意する。
- ・穂肥時期は化成肥料を使う場合より、やや早めに施用する。
- ・刈り遅れると茶米が発生しやすいので、適期収穫に努める。

- ・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！
- ・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

【ヒノヒカリ特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質	食味
					葉	穂					
中	8.28	10.10	81	偏穂	中		弱	中	強	上の中	上の上

月 旬	5			6			7			8			9			10	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中



管理作業	5	6	7	8	9	10
① 種子消毒	種子消毒準備					
② 育苗箱処理		育苗箱処理				
③ 除草剤散布						
※病害虫防除				穂肥		落収

【例】

用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数
①種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シガレセンチュウ等	0	—
②育苗箱処理	デジタルパウアー箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	育苗箱中の苗の上から均一に散布	いもち病、ウンカ類、フタバコヤガ、イネスズムシ等	3	1
③除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～ 1/3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホタルイ等	2	1
※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、カメシラ等	1	1
※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。 追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。						6	

【例】 (kg/10a)

		N	P	K
基肥	堆肥	1,000		
	菜種粕ペレット	50	2.7	1.0
	有機PK2号	30	0.3	3.0
穂肥	有機653	50	3.0	2.8
	計		6.0	6.8
計			6.8	5.3

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

【施肥のポイント】
穂肥(追肥)は、地力や生育、葉色に応じ、時期と量を加減する。